



第40号 2022.7.29 発行
 発行者：株式会社協進印刷
 編集者：JO 編集委員会

いつ誰がどんな言葉をかけるか その一言で子どもは変われる

ユカナガシマクッキングサロン主宰
 前横浜市教育委員

長島 由佳さん



料理研究家・食育コーディネーター・人権擁護委員・SON神奈川副会長・前横浜市教育委員
 学校・保護者・地域を繋ぎ、多様な人・環境を尊重しあえる地域社会を創出することが、子どもたちのそれぞれの未来を作ることになると「食」と「キャリア」「人権」の要素を融合させた、寄り添い活動や講演活動・インクルーシブ活動などを仲間とともに積極的に行ない、切れ目のない教育の大切さや、人が学び育ち合うための「豊かな力」の醸成を伝えている。

江森：長島さんとは2015年の横浜市教育委員会の地域キャリア教育支援協議会でお目にかかって以来、横浜市のキャリア教育プログラムである「はまっ子未来カンパニープロジェクト」など、横浜の子どもの学びの場面で一緒にさせていただいてきました。

今日は、横浜市立横浜総合高校で開催されている「ようこそカフェ」という、居場所づくり事業での食品配布の場にお邪魔しています。どうして長島さんがこれをやっているんですか。

長島：今日は、というかコロナになってからは、おにぎりとフルーツの配布が中心ですが、2017年によるようこそカフェに関わり始めた頃は、ここで調理してここで食べるというのを基本としていました。第1回はわらび餅、それからクリームシチューとか、ちらし寿司とか。

江森：長島さんの専門は食育でしたね。やはり子どもたちの「食」に問題があると思いませんか？

長島：いろいろな家庭環境の子がいるから、毎日1人でインスタント食品で済ませたり、それすらできない場合もあります。ひとり親家庭で保護者ともすれ違いの生活で、家では誰とも話さないという生徒もいる中で、ここで誰かと少しでも話して、温かい料理を食べれば、身体だけでなく心を安定させることにもつながるでしょう。

江森：確かに食は大事です。今日もアボカド、レモン、オレンジ、バナナが箱で提供されていますが、これはどこから？

長島：元国会議員の佐藤謙一郎さんがここを見学に来られたときに共感してくださって、貿易会社を経営しているご友人に頼んでくれて、それ以来無料でわけていただ

ています。毎週2回大黒埠頭まで取りに行っていて、クルマのタイヤの減りが早いのにびっくり！（笑）

江森：軽トラ買った方が良いのでは？（笑）ようこそカフェにはいろいろな団体が関わっているんですね。

長島：就業支援や外国につながる生徒の相談、デートDVに関する相談などを受けられる団体が参加していて、私もその団体と共に運営を担い、食育と軽食の提供をしています。他にも多くの団体に協力していただいている、野菜不足の生徒たちに少しでも多くの野菜を提供したくてJA青壮年部の方に協力していただいたり、佐藤先生のお知り合いの造園会社さんの協力で学校敷地内の未使用箇所を「ようこそガーデン」という農園にして、横総版地産地消が叶い始めてます。

江森：これほどまでに教育にのめり込むのもそのスタートはPTAですよ？

長島：最初は幼稚園から、父母の会の会長をお願いしたいと言われて、私なんてとんでもない！って断ったんですけど…。引き受けてみたら小学校にはPTA広報ってあるけど、幼稚園にはないなって思ったんですよね。情報がないから興味を持ってもらえないんじゃないかと思って、園長先生に作っていいですかって聞いたたら、いいよってことになって。小学校のPTA会長のときは通学路を新しく作ったり、とにかく思いついたことをなんでも行動に移してきましたね。それができる環境だったし、協力してくれる仲間がいたし。そうやって学校支援や地域活動をしているうちに市P連の会長を担い、退任後に教育委員のお話をいただいたということなんです。



江森…教育委員をやってみてどうでした。

長島…やっぱり大人が元氣じゃなかったら子どもたちは元氣になれない。教員や地域の大人がいきいきと活動することで子どもたちがより良く成長していく、そういう教育環境を整えるのが大事ということを再確認しました。そこで私の仕事は何だろうって考えたときに、それはひとつでも多くの学校に行つて自分の目で見て、それを教育行政に反映させることだと思って、学校にはたくさん行つたし、栄養士さんの研修会なども行けるものは全部行きました。

江森…そういうことでしたか。少し謎が解けました(笑)。教育環境という話が出たので、私が学校教育に関わって感じる課題について話したいのですが、たとえば長島さんも会長をされている学校運営協議会とか、

学校と地域の連携を進めようという動きがあつて、実際私が学校に行つて授業をしているぐらいなので、ある程度はうまくいっていると思うのですが、そういう地域との連携のノウハウが教員同士で全然共有されていない、学校の先生っていつも一人だと感じます。これについてはどう思いますか。

長島…学校の先生って自分が教える立場だから、失敗したくないとか失敗してはいけないと思つている人は多いと思いますね。一方で、何でも人に聞けて、頼めて、広がっていく人も中にはいて、そういう人がはまっ子未来に関わつてると思わない？

江森…そうやっていつまでも個人の資質に依存しているのがよくないんじゃないですかね？素晴らしい先生なんて、そんなにたくさんいるんじゃないでしょう。実際、同じ学校で同じ校長なのに、翌年担当の先生が変わつただけで取り組みのクオリティがガタ落ちなんてことは何度も経験しています。ちゃんと管理してんの？って思つてしまいますね。

長島…マネジメントよね。校長でもすごく上手な人もいるけど、マネジメント力の高い人をもつと養成しないといけないですね。江森…校長先生の研修ってあるんですか？

長島…私もいくつか見させてもらいましたけど、いい研修いっぱいありますよ。江森…それでダメとなると、校長を選ぶ基準を変えないといけないかもしれませんね。課題は見えていると思うんですよ。教員の働き方改革とかやつてるわけですから、特定の人に仕事が集まっている現状とか。わかつていのに改革しないというのは、や

る気がないとした僕には思えない。

長島…やらなきゃいけないのはわかつていて、動いてもいいと思う。でもそれが縦割り組織の弊害で、みんなで共有してどうしようかと考える習慣がないというか。教育委員だったときも、何か質問があつてどこに聞けばいい？と聞くと、それは〇〇課ですって言われるんだけど、それじゃ足りないから、私は必ず関係する人全員に来てもらつて話を聞いていました。そうすると、それならうちで出来ますとか、スムーズに話が進みますよね。でもそれを今もやつてるかはわからない(笑)。

江森…協力しないと仕事ができないような仕組みに変えてしまえばいいんじゃないですかね。

長島…でも、みんなでやろうとすると、それはどこの予算かということになるのよね。江森…予算ねえ…。結局そこですか、なんかもつたないですねえ。

長島…本当にもつたない！優秀な職員いっぱいいるのよ。でも活かしきれてないですね。

江森…確かに横浜市は優秀な人たくさんいますよね。そういう優秀な人が組織をつなげる役を担えるようにしたいですね。人事評価としても認めてあげれば「やり損」みたいなことはなくなっていくし。

長島…変えるにはどうしたらいい？

江森…どうすればいいんですかね？私は「やろつ」と本気で思つたことだと思いますが。

長島…そうですね、結局大人がめんどうさがつちゃダメなんです。子どもたちには未来があるし、生まれてきた以上は食べることも学ぶことも平等以上じゃないといけない

いつて私は思っています。そうするためにまずは大人がいろいろなことを乗り越えたいとね。

江森…これまで子どもに関わつてきて思いに残っているエピソードはありますか。

長島…うーん、いっぱいあるなあ。じゃあ横浜総合の話で。私がここで料理しているいつも鍋を覗き込んで「これなに？」って聞いてくる女の子がいて、なんで聞くのかなあと思つたら実は色覚障害だったんです。その子が卒業するときにメッセージをくれたんです。「長島さんや、みんながいてくれたから、学校を辞めようと思つたときも乗り越えられました。長島さんが作ってくれた料理だから、野菜嫌いだけど食べなきゃって思えた」って。これはすごくうれしかったなあ。学校を辞めるといふのも履修選択したくても色覚障害が原因で取れない科目がいくつかあつた。安全面からの理由とは分かつていても、頭ごなしにダメというのではなく、取れるために大人がじっくり向き合つて努力し、その結果がダメならダメでも仕方ない。そんな時に大人が生徒にどこまで寄り添えるか。それが子どもと関わる大人の責任なんだと思います。

結構トンガつてる子でね、「なんだよー」とか言つてた子だったけど、このメッセージにはこの子の素直なところが出ていて本当にうれしかった。本来みんな素直なんですよね。いつ誰にどんな言葉をかけられたか、そのひと言で変われるし、未来を見ることが出来る。いま世の中多様性っていうけど、子どもと関わる人は、まずは自分が多様に考えるということを大切にして欲しいですね。

「ありがとうナイト2022」今年も懇親の夕べが復活

今年で9回目となるCSR報告会「ありがとうナイト」。この2年はご来場人数を制限してのハイブリッド開催で、お楽しみみの懇親の夕べも断念していましたが、今年はハイブリッドを維持しつつ、フルスペックで9月16日（金）に開催いたします！

弊社の事業年度である2021年3月～2022年2月の活動とマネジメントレビューの報告を中心に、今年度に入ってから最新の動きなどもお伝えできればと考えています。3年ぶりの懇親会は賑やかに開催したい気持ちは山々ですが、会場となるBUKATSUDOの定員制限により、

リアルでご参加いただける方の数が限られてしまいますことをお許しください。

当日は15時～17時をパネル&作品展示&報告発表。17時～19時を懇親の夕べといたします。ご都合の良い時間にお越しいただき自由にご覧ください。もちろんスタッフは常駐しておりますのでお気軽にお声掛けください。

報告発表は15時30分～16時30分、同会場からの生中継でZoomを使ったハイブリッド形式で開催します。コロナ禍を経験して大きく業態変革している現状を、社長はじめ各担当者から報告させていただきま

す。

例年ご参加いただいていた方には、招待状を送付させていただきますが、この記事を読んで参加してくださるという方は下記の「ありがとうナイト2022」参加申込専用ページよりご登録をお願いします。

当日は残暑が厳しいのか、はたまたすっかり秋めいているのか、まったく予想がつきませんが、立場を越えて地域のことやSDGsのことなどについて考える機会となるよう、スタッフ一同準備を進めておりますので、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。



益者三樂 損者三樂

料理にまつわるエトセトラ

江森克治

今や途上国でもそうそう起らない要人殺害事件が、この日本で起こるとは本当にショッキングなこと。この事件が日本社会につきつけた課題は実に深刻なものである。人は往々にして他人に対して不満を持つ。あんなやついなくなればいいと思うことだってあるだろう。しかし普通の人は実行に移さない。それは社会がそのような反社会的な行為に対する抑止力を持っているから。抑止力とは①倫理観②法規制③社会規範のようなものだろう。特に今回のような大事件を起こす場合には③の影響は大きいはずだが、機能しなかった。これは私たちが社会の束縛から解かれた一方で、社会の輪からこぼれ落ちてしまう人たちに対しての包容力を失ったことを示してはいないだろうか。私たちの社会は変質している。これから私たちはどういう社会を作っていけばいいのか、皆が関心を持ち、本気で考え、行動しなければならない時はすでに到来している。

暗い気持ちになったときはおいしいものでも食べて気分を変えよう。料理には素材や調理法に加え、「器」という欠かせない要素がある。日本の食卓には和洋中あらゆる料理がのぼるので、収納場所のことも忘れてつつい食器が増えていく。我が家ではメインのおかずは大皿で供することが多く、中華、洋食はシンプルな白い皿で良いのだが、和食はどうもそういうわけにいかない。

産地に近いこともありよく使うのは益子焼。ドライブがてらふらっと出掛けてはB級品を物色、ときに写真のような掘り出し物にも出会える。益子の兄弟産地で茨城県の笠間も日帰り圏内。こちらは比較のおしゃれ度が高い印象。

有名産地は中部エリアに多いが、なぜかあまり縁がない。一番好きなのは萩焼。とはいえ萩にはめったに行けないので、今持っているのは2つだけ。次に行くときは少し時間をかけて窯元をまわってみたい。

今日は鶏肉と新じゃがの煮物。油揚げを加えてひと工夫。



- 2022年9月16日（金）
- 会場・BUKATSUDO
- パネル展示 & 作品展示
- 15時～17時
- ハイブリッド報告発表
- 15時30分～16時30分（Zoom）
- 懇親の夕べ
- 17時～19時



ありがとうナイト 2022 参加申込専用ページ
<https://cocollabo.jp/tonight/2022.html>

あなたの知らない ふおんとのはなし

第十話（最終話） デジタルで広がるフォントの世界

近代印刷におけるフォント（言葉の定義はさておき）は、このように呼びます。の歴史は本木昌造が先駆けた鉛活字に始まり、写真植字機研究所（写真）が開発した写真植字機（写植）の時代を経て、コンピュータ上にデータとして存在するデジタルフォントへと進化してきました。デジタル以前は書体別大きさに、活字や写植の文字盤といった物理的な「物体」を製作しなければならなかったため、フォント開発には莫大な労力とコストがかかりました。デジタル時代になっても、一文字一文字をデザインする労力は計り知れないものがあります。一旦データができてしまえば展開するのは容易いので、近年新しいフォントが続々とリリースされています。

有料フォントの有名どころとしては業界トップのモリスワフをはじめ、フォントワークス、ダイナフォント、アドビフォントなどがあります。モリスワフは、石井茂吉と共に写植を実用化した森澤信夫が創業した会社ですが、今では印刷の世界のスタンダードになっています。デザイン素材の販売サイトであるデザインポケットでも個性的なフォントが多数販売されています。

一方、無料フォントの代表格といえばGoogleフォント。世界各国の文字が揃っており、日本語だけでも51書体が収録されています。またフリーフォントの投稿サイトFONT FAREには、個性的なフォントが数多く投稿されており、商用可能なものもたくさんあります。KFヒマ字、みかちゃん、ミウラLineerなどはプロの世界でもすっかり有名になりました。

たかが文字、されど文字。デザイン、字形、行送り、プロポーショナル、文字セット：フォントの世界は奥が深く、知れば知るほど、微細な違いが醸し出す世界観の虜になること間違いなし。明朝、ゴシックではおもしろくないからと安易にPOP書体など使うことなかれ。明朝、ゴシックも書体によってがらっと雰囲気が変わります。好きな明朝、好きなゴシックを探しに、さあフォントの旅に出発しましょう！

「認知症を知ろう」7つのふれあい 「コミュニケーション編」

えほんになって再登場！

地元神奈川県川区の活動「オレンジプロジェクト」が発行した認知症を知ろうポスターが「えほん」になって再登場。

企業や行政など関係団体に配布したところ、セミナーで使用したい、近隣に配布したいなど、お問い合わせが相次ぎ、一般向けに販売することになりました。



販売価格の10%は、オレンジプロジェクトを通じてお年寄りにやさしいまちづくりに貢献している全国の団体などに寄付します。皆さま、是非ご活用ください。

【お問い合わせ】 協進印刷 竹見まで

グリーンプリンティング更新認定取得

平成19年に取得した日本印刷産業連合会のグリーンプリンティング（GP）認定制度の6回目となる更新審査を終え、6月21日に更新認定をいただきました。

GP認定とは日本印刷産業連合会が定めるグリーン基準を満たした事業所を認定する制度で、行政機関の調達基準にも用いられるなど、印刷業の環境関連認定としては最も権威ある制度です。

取得からのこの15年間を振り返ると、独自の取り組みが大幅に増えていること、公的な表彰を多数いただいたことなど、会社としての成長を感じるとともに、測定と改善のサイクルを継続することの大切さを再認識しています。

本年度はサプライチェーン排出量を削減すべく、ステークホルダーの皆さまとともに考え、CO₂削減の仕組みづくりを進めてまいります。

「選べる紙製クリアファイル」はじめました

誰もが使うものなのに意外と脱プラが進んでいないクリアファイル。だからこそ、どんな人でも脱プラやSDGsに参加できるように開発されたのが「紙製クリアファイル」です。このたび、用途に合わせて選べる3つのバリエーションがラインアップされました。

クリアファイルとしての機能を確保できるように紙の選定にこだわり抜いたプレミアムタイプ。中の書類を視認できるように片面だけ透ける加工をほどこした片面半透明タイプ。両面が透け、薄手・軽量・低価格で手軽に脱プラに取り組めるエコノミータイプの3種類をご用意。

使用シーンにあわせて取り組める、脱プラアイテムとしておすすめです。詳しくはWEBで！



用途に合わせて選べる
3種類の紙製クリアファイルをご用意

<p>01. プレミアムタイプ</p> <p>紙製クリアファイルの代表格であるプレミアムタイプ。美しいデザインと耐久性、遮光性、防汚性を兼ね備え、大切な書類を保護し、持ち運びに便利なクリアファイルです。また、環境にやさしい再生紙を使用しています。</p> <p>紙製クリアファイルの代表格であるプレミアムタイプ。美しいデザインと耐久性、遮光性、防汚性を兼ね備え、大切な書類を保護し、持ち運びに便利なクリアファイルです。また、環境にやさしい再生紙を使用しています。</p>	
<p>02. 片面半透明タイプ</p> <p>大切な書類を保護しながら、中の書類が透けるように設計したクリアファイルです。持ち運びに便利なクリアファイルです。また、環境にやさしい再生紙を使用しています。</p> <p>大切な書類を保護しながら、中の書類が透けるように設計したクリアファイルです。持ち運びに便利なクリアファイルです。また、環境にやさしい再生紙を使用しています。</p>	
<p>03. エコノミータイプ（両面半透明）</p> <p>両面半透明タイプは、両面から書類を確認できるクリアファイルです。持ち運びに便利なクリアファイルです。また、環境にやさしい再生紙を使用しています。</p> <p>両面半透明タイプは、両面から書類を確認できるクリアファイルです。持ち運びに便利なクリアファイルです。また、環境にやさしい再生紙を使用しています。</p>	

JO（ジェイ・オー）2022年7月号（第40号）
 発行者：株式会社協進印刷
 横浜市神奈川区大口仲町108番地
 TEL：045（431）6611
 FAX：050（3730）6273
 URL：http://www.kyoshin-print.co.jp

